

## スポーツ・教育振興調査特別委員会会議記録

スポーツ・教育振興調査特別委員会委員長 名須川 晋

- 1 日時  
平成 29 年 4 月 19 日（水曜日）  
午前 10 時 2 分開会、午前 11 時 37 分散会
- 2 場所  
第 4 委員会室
- 3 出席委員  
名須川晋委員長、千葉絢子副委員長、郷右近浩委員、高橋但馬委員、  
菅野ひろのり委員、樋下正信委員、佐々木茂光委員、城内よしひこ委員、佐々木努委員、  
中平均委員、吉田敬子委員、白澤勉委員
- 4 欠席委員  
なし
- 5 事務局職員  
工藤担当書記、古屋敷担当書記
- 6 説明のため出席した者  
仁王地区活動センター 所長 巖岩千裕 氏
- 7 一般傍聴者  
なし
- 8 会議に付した事件
  - (1) 調査  
岩手の教育力を高める一考察「岩手っ子 一人一人の輝く笑顔のために」
  - (2) その他
    - ア 委員会県内調査について
    - イ 次回の委員会運営について

### 9 議事の内容

○名須川晋委員長 ただいまからスポーツ・教育振興調査特別委員会を開会いたします。  
委員会を開きます前に、当特別委員会の担当書記に異動がありましたので、新任の書記を紹介いたしたいと思います。

古屋敷担当書記。

これより本日の会議を開きます。本日は、お手元に配付いたしております日程のとおり、岩手の教育力を高める一考察岩手っ子 一人一人の輝く笑顔のためについて調査を行います。

講師として、仁王地区活動センター所長、巖岩千裕様をお招きいたしておりますので、

御紹介いたします。

○**巖岩千裕講師** 巖岩千裕と申します。ちょっと女みtainな名前なのですが、一応男でございます。きょうは、よろしくお願ひします。

○**名須川晋委員長** 巖岩様の御略歴等につきましては、お手元に配付している資料のとおりでございます。

本日は、岩手の教育力を高める一考察岩手っ子 一人一人の輝く笑顔のためにと題しまして、盛岡市内の小学校において校長先生を歴任された御経験から、本県の教育力を高めるための詳しい話をいただくこととしております。

巖岩様におかれましては、御多忙のところ、このたびの御講演を快くお引き受けいただきましたことに、改めて感謝申し上げます。

これから、講師の話をいただくことといたしますが、後ほど巖岩様を交えての質疑、意見交換の時間を設けておりますので、御了承願ひたいと思ひます。

それでは、巖岩様、よろしくお願ひいたします。

○**巖岩千裕講師** よろしくお願ひします。私は、学校の教員をずっとやっけていて、最後校長で終わったのですが、そのほかにも地域活動を続けていまして、今三ツ割町内会の副会長をやっております。副会長になる前にいろんなことやっけていたのですが、樋下議員さんには敬老会に来て御挨拶をいただいたり、私はそのときの司会者でした。というのもあり、いろんなことをやらせていただけていました。

ということで、校長時代にはいろんなことをやっけてきたのです、子供たちが楽しむためにです。子供たちの未来のために楽しませる、楽しい学校づくりということで、いろんなことをやっけてきました。そのことでちょっと基本になること、そしてまたやっけてきたこととお話できればなと思ひましたので、きょうはよろしくお願ひします。

最初に、私は県の教育委員会にもおりまして、そのときに教育振興運動の担当者としてかかわってきました。教育振興というのをベースにやっけておりました。一応教育振興運動の基本形ということで、教育振興運動の三つの柱が学力向上、健全育成、健康安全というこの三つがあります。

そこで、その三つを具現化するために教育振興の5Rというか、五つのものがあります。ほかのところでは学校と地域が連携してというところがあり、家庭も連携してというところもあるのですが、結構この5者の連携というのが岩手県のみというか、その後どこか出てきたのかもしれませんが、学校、地域、家庭の上に子供にも役割を持たせるということで、子供にも役割を持たせ、行政もそれに手助けしていこうというこの五つのところで成り立っているというのを、釈迦に説法なんでしょうが、一応委員さんのところにもお話ししておいて進めていきたいと思ひます。

そういうこともあつて、私は地域にも入りながら、ちょうど行政にもいて、いろんな立場から関わってこれたのです。学校、地域、家庭でもいたし、ただ残念ながらも子供にはなれませんでした、教育振興に出会ったときにはもう40近い年齢になっていましたの

で、そういうことで学校の基本形、ここの教育振興運動に置いていました。

一つ、これは誰も決められていないことなのですが、学力向上と健全育成、健康安全とありますが、皆さんどれが一番大事だと思いますか。これは、正解はないのですが、ちょっといいでしょうか。学力向上だと思う人、手を挙げていただけますか。健全育成だと思う人。そして、健康安全だと思う人いらっしゃいますか。ありがとうございます。

私の持論は、健康安全。命がある。この間、痛ましい事件起きましたよね、保護者会長さんが子供さんをとという事件もあったし、いろんな部分で、まず子供の命を守らなければならぬだろう。そして、子供が健康に過ごせるための地域ベース、さまざまなベースも地域とともにつくっていかねばならない。これは学校だけでできることではないので、その命あってのものから今度健全育成。やっぱり心がある。心を育てていって、その落ちついた心の中で学力向上を図っていくというのが私の持論でして、今と同じ質問を校長先生方がわっといところでやったのです。3分の2が学力向上でした。確かに出発点が学力向上だったのですよね、教育振興は。岩手県は全国最下位の学力、あのときは沖縄がまだ返還になっていないので、最下位だったのです。それで、これはどうにかしようという当時の工藤教育長さん、工藤知事さんになられたのですが、の提案で始まったのです。ですが、学力向上だけを追い求めていくと学校がすごく荒れたりということが多くなりました。健全育成、やっぱりきちんとしていかなければならぬだろうというところに世情の不安から命、危険な部分が出てきましたので。学力向上だけを追い求めていくと、すごくつらい部分が出てくる。それが一人一人を見ていけばいいのですが、なかなか全部の学力を上げようとすると、今の校長さんたちも、学力向上は、上は上がるのだけれどもなかなか下が上がらないのだよねと。それって違うのではないかな、一人一人の子供たちを見ていけば、見つめていけば、何をしたいのかわかってくるのではないかなと思うのが私の持論でした。

ということで、学校経営はそれで進めていたのですが、私が教育振興運動の担当者をしていたころに、県議会の議員さんから質問があったのです。教育振興運動はけしからぬと。地域の文化を壊すものだということをお話しになられたのです。聞いたら、家族の取り組みとして、家で方言を使ったらバツをつけられる。バツをつけようという運動があったのだそうです。そういうことをしているのかと。方言というのは地域の文化ということで、大変お怒りになって、そして私も調べたのです。そうしたら、確かにあったのです。じいちゃんが方言を使うとバツをつける。だんだんじいちゃんがしゃべられなくなったと。それでいいのかなと思ったのですが、地域的な課題、それが昭和40年代の、私の出身は今はない宮古の新里村なのですが、その地域でちょうど、新里村と川井村と一緒にやった運動だったのですが、集団就職で行くと方言でばかにされて仕事ができなくて、転々としてまた戻ってくる、転々として行方不明になってしまうという子が結構多く出た。これは、盛岡あたりはもういいのです、結構テレビが普及していて、テレビを聞きながら方言は直っていったのですが。そういうテレビを見ないとやっぱりそのまま方言になってしまうの

で、方言も大事にしながら、うちできちんとした標準語の勉強をしようということでやった運動だった。だから、その地域的な課題、年代的な課題に即した取り組みであって、全否定するものではないと思いますというお答えを時の県議会議員さんにお話し、すみません、ここにはいらっしやらないので、二十何年前ですか、のときにお話しになって、でもそういうふうに関心を持ってもらえることというのはいいなと思っておりました。きょうも何の因果かなど、県議会の議員さんの前でお話しできる機会いただいたときに、こういうこともありましたよとお話しできればいいなと思ってお話ししました。

もう一つ、それが私の教育の部分の根底にあります。次に、考えて、先生方にも徹底したのが、子供が笑顔になるために。とにかく子供といっぱい触れ合ってくださいと。そして、一緒に喜んでください、これが第一番目ですよ。子供たちの自己存在感ですよ。自分はここにいていいのだ、ここでみんなと一緒にいていいのだというのがわかるところから始めようと。そして、たった三十何人の子供ですから、一日に一回必ずその子のいいところを見つけて褒めてあげてください。褒められて認められてうれしい。これ子供の自己肯定感につながります。安定します。そして、最後に掃除でもいい、何でもいい、いろんな仕事を子供にやらせてみてください。そして、ありがとうと感謝してください。これが子供たちにとっては自分が人の役に立った、さらにうれしいわけです。自己有用感、これがキャリア教育、自分が仕事についたとき、働く喜び、人に感謝される喜びというのにつながってくるということを考えて、未来のために子供たちはこのことを先生にやってもらう、いろんな人にやってもらおうとうれしいだろうな、楽しい学校、それが将来子供たちが仕事をするときに役に立ち、いいことでないのかなということ、ずっと続けさせてもらいました。

このことで非行、いじめとか不登校というのがどんどん少なくなっていったのですが、このことが一つの原因でもありますし、あと校長というのは割と朝暇なのです。ほかの先生方はすごく忙しい、担任の先生は子供たちが来るのを待ってなければならない。私、朝に不登校の子供を全員迎えにいきました。最初のころは9時ごろまでかかりました。7時前から行って、さあ、行こうかと。えっ、校長先生が来てくれたので来る子はいいのですが、ええ、嫌だとか、そこでやりながら、不登校の子供たちも大事にしながら、担任の先生がこんなこと褒めていたよとか言いながら、学校に連れてきて、そしてだんだんにもう8時、登校のころにはみんな来れている学校になってきたというのが一つの事例です。

ということで、さっき言った三つを担任にもさせながら、私のほうも子供にそういう接し方をしてきて、そしてちょっとここで言っているものかどうかわかりませんが、校長室はほとんど遊び場でした。休み時間は子供たちが来て遊んでいると、お客さんが来る。来ても子供たちは遊んでいるわけです。でも、地域の方が来たりなんかしても、いや、いいねと、子供たちがこうやって元気に遊んでいる姿を見られるのはいいよと、一緒に地域の方も来て子供と遊んで、そして子供たちがいなくなるのですが、そこでまた話を始めて、そういう私は、昔は校長室に入ったことがない、校長室に入ると怒られるものだというこ

とがあったのですが、そういうことがない、子供にとって開かれた校長室になってほしいなということでやってきておりました。

ということで、あと一つ、皆さん聞いたことないでしょうか。今と昔の小学生の特質ということで、小学生だけに限らないのですが、障がいを持つ子供が増えているということを知ったことがあるかと思います。昔に比べて増えているのでしょうか。増えてないですよ。ただ、昔はそういう判定をされなかったのです。今は、ちょっとこの子供が少し普通の子と違うねというと、病院に行ってADHD、そして自閉症、高機能自閉、アスペルガー、緘黙とか、さまざまな病名をつけられて、でもそのおかげで対処はしやすくなったのです。ただ昔、どうして私らのころはなかったのだろう。あったのですが、そういう子は学校に来なかったですもの。地域で釣りをしていたとか、山菜とりにいって来なかったりとか、あとはいいことではないですよ、体罰とか、恐怖政治で子供を抑えていたわけですから、そうすると、そういう子たちでも動物よりは知能があるわけですから、当然殴られたり、だめだとぼちんと怒られるとやらなくなる。そのときだけはおとなしくしている、お客様状態というのがあったのだと思います。私の友達もそういう子たちが何人かいましたので。そういうことなので、今その子たちにも光が当たっているのではないかな。だから、いいことなのではないかなと思います。

あとこれもこぼれ話になるのですが、私が最初に校長になったときには自分の出身の学校に行ったのです。そうしたら、自分の指導要録というのがあるのですけれども、まだ残っていたのです。40年もたつのに。普通は20年で廃棄して良いということにはなっているのですが、廃棄してなくて、私の指導要録を見たら、落ちつきがない、授業中飛び出す、廊下を走ると。ああ、俺ADHDだったのだと本当に思いました、1年から6年まで。ADHDだからといって、でもそのときにきちんと叱ってくれた先生がいっぱいいらっしゃって、そして、ああ、そういうことをしてはダメなのだということを覚えながらやっていたと思うのです。今の子供たちにもそういうことを優しく叱りながら導いてあげられればいいのかと思ってやってきました。ということがちょっと一つありましたが、障がいを持つ子供は増えているわけではなくて、その子に逆に光が当たっているのだということを知っていてくださればいいなと思います。

あと一つ、家庭と連絡しながら進めたことに、よりよい子供に育てるために校長会でアンケート調査をしました。私が主になってやったのですが。そのときにクロス集計しました。このときに宮古の子供、小学生だけだったのですが、3,000人だったと思いますが、子供たちのアンケートをとったときに、子供と親です、このときにおもしろいのは、朝食をしっかりと食べる子供ほど就寝時間が早い。就寝時間が早い子供ほどテレビ視聴やゲーム遊びの時間が短い。テレビ視聴やゲーム時間が短い子供ほど楽しい学校生活を送っている。そして、楽しい学校生活を送っている子供ほど学校や放課後、体を動かしている。学校や放課後、体を動かさず子供ほど朝食をしっかりと食べている。この繰り返しがあって、クロス集計していくうちに、この一つを実践していけばいいようにぼんぼんつながっていく。だ

から、まず朝食をしっかり食べさせよう。お母さんたちお願いしますよ、私たちは学校で子供たちをどんどん動かす、体育の授業もそうですが、あとは業間とか休み時間、放課後、さまざまな時間で子供たちの体をどんどん動かしてやる、一人一人を見ながらですが、そういうことを実践して行って、いい形につなげていけたなと思っています。

あともう一つあったのが、ちょっとおもしろいのが、家族団らんで夕食をとっている子供、朝食をしっかり食べる子供ほど学校でいららすことが少ない。これがすごく、おもしろいなと思ったのですが、本当に学校でのいろんなこととかを話ができる家族団らんの楽しみ、朝食をしっかりとして、学校に来たときすごく落ちついているということが、本当に読み取れた、きちんとデータで出たので、すごく安心して私たちはお母さん方に御協力いただいて、子供たちの未来のためにいい学校生活を、楽しい学校生活を送れるようにサポートしたつもりです。

子供が変わるために保護者への啓蒙ということで、一時出たのですが、早寝早起き朝御飯とは言われたのですが、もう少し進んで、早寝早起き、そしてしっかり朝御飯、みんなで読書ということを打ち出しました。家でも一緒に読書する時間をつくってくれないか。テレビを消して、親子で。そういう時間をなるべくつくってくださいということで、そのアンケートもとりながら実施したところでしたが、やっぱり健康安全にもいいですし、学力向上には当然役に立ってきますし、健全育成、全てに役に立ってきた記憶があります。そのあたりもアンケートでとったときに、どんどん向上していったのがうれしいことでした。

私は、そのほかにもやったことで、一人一人の輝く笑顔のためにということで、学校の地域連携から学社融合、これ学校の敷居が高いとかとよく聞いたことはありませんでしょうか。私も学校から出て違う学校に今行くのですが、やっぱり学校、そういえば敷居が高いよなと思うのです。何で敷居が高いのかなと、もう少し学校に入りやすい状況を学校で作り上げてくれたらな。自分の学校はわからなかったのです。自分は学校のものですから、敷居が高かったのかな。でも、うち敷居を余り高くしなかったよなと思いながら今やっていますが、学校教育力を地域教育力、そして家庭教育力へと書いてありました。学校の教育力というのは、ある種みんなが認めているわけです。子供も学校の先生の言うことは聞く。親が時々やるのです。うちで学校の宿題をしないから先生しゃべってくれ、ならわかるのです、まだ。うちで御飯をちゃんと食べないから食べるように学校で言ってくれ、うちでなかなか寝ないから学校で言ってくれ。違うのではないかな。それを、何か学校の教育力をもっともっと地域の人が持ってくれ、そして家庭で持ってくれるようにできないかということで、いろんなことをやってきました。

多くの目で子供たちを育てることが次につながっております。一応うちの学校でやったこと、学習ボランティアの活用ということで、保護者、地域の方にいろんな面で登場してもらいました。各種のボランティアということで、学校図書館ボランティア、これも県教委にいたとき、ちょうど図書館担当にもなったので、学校図書館ボランティアを学

校に立ち上げる担当者というか、自分でその事業を申請してやらせてもらったのですが、盛岡近郊に三十ちょっとの学校ボランティアをそのとき立ち上げたのです。

教育委員会、私たちが主で入るとおもしろいのですよね。学校が図書館ボランティアを立ち上げますよとやると、保護者に遠慮しなければならない。保護者が図書館ボランティアをつくって子供のためにというと、今度学校に遠慮しなければならないのが、行政、私たちがつくと、学校のためにこうやってくださいと保護者には言う、保護者のために土台をそろえてくださいというのを学校に言える。文句は私たちに来ると。学校と保護者、地域が手を組んで一緒にやれる、何か困ったことがあったとか、ええ、これおかしいじゃないというのは私のほうに来る。そうすると、私は担当者なので、こういうふうにやるといいと思いますよ、あと学校とかに訪ねて行ってやれたというのがとてもいい思い出になって、私も最後の学校も、その前の学校も私がつくった図書館ボランティアのところに行って、ああ、すごくよく育っているねと思いながらやってきました。

そういう学校図書館ボランティアが授業時間に入る、朝の読書時間に入って読み聞かせをする、そのことでお母さん方、地域の方々が子供たちに認知され、教育力を持ってくる。そして、学習ボランティア、丸つけ、あとはミシンボランティア、ミシンのときに結構危険なのです、一人の先生がみんな見ているわけにはいかない。でも、やっぱりさっき言ったADHDとか、私みたいな子供ですよ、落ちつきがない子供がよくどんと刺すのです。そうすると、大けがにつながるということもあるので、そういうものがないようにということで、ミシンボランティアもやりました。そして、見学学習、これも一人の担任の先生、もう一人ぐらいいますが、たった二人ぐらいで三十何人とか、2学年になれば六十人、その子供たちの安全を確保できないということで、保護者の皆さん、地域の皆さんに呼びかけて、一緒に行ってもらう。そうすると、不審者対応もあるのですが、そういうこともあって、あとは道を歩きながらでも何かを聞くと、お母さんが、地域の方が子供に答えるわけです。子供の質問に答えていく。そういうこともなると、地域のおじちゃん、おばちゃん、そして誰々君のお父さん、お母さんをええ、すごいなと尊敬するようになります。あとは、今やっているのが生け花ボランティア、これは子供の情操教育にも役立ちます。地域にある野花とか、地域の方々が学校に生けてくれる。そして、花瓶は学校に結構昔のものがいっぱいありますので、それをちょっと部屋を借りて生け花をして、子供たちの目を楽しませる。

特になかなかできなくて、ほかのところでできたのが保育ボランティア。授業参観とかで小さいお子さんを連れてきますよね。そうすると、お母さんは落ちついて見られない。その子供を預かります。ということで、預かるボランティアを卒業したお母さん方とか地域の方々がいて、三十人ぐらいいましたか、そういう方々が預かってくれる。学習発表会、あとは卒業式。さっき言った授業参観といろんな保護者が集まる時にお母さんが子供を預けられるとじっくり授業も見られ、あと懇談会もそういう子供を預かってくれますから、落ちついてやれると。そうすると、ただお母さん方はつらいかもしれません。役員を決め

るときに逃げられない。ちょっと小さい子供がいますのでといなくなるお母さんがなくなる。なくなりほしくないのですけれども、少なくはなりますので、本当に懇談として子供たちのいろんな問題点とか、いろんなことをやる時にそういうのをできるというのはとてもよかったなと思っていました。

あとは、音楽もそうです。習字、英語、子供見守り隊、登下校、あと環境ということでやっていました。

今私は仁王地区活動センターなもので、地域の一人として仁王小学校の地域コーディネーターをやって、子供たちといろんなことをやっていました。保護者、地域の方々を丸つけのボランティアに呼んだりミシンのボランティア、習字、音楽、今度保育もやりたいなと思うのですが、そういう方々が入って行って、子供たちと知り合いになり、子供たちに、あのとき丸つけてくれたおばちゃんだよとか、そういう環境をつくり上げていきたいなと。子供たちにとって安心できる環境だし、地域の方にとってはやりがいのある、子供たちと触れ合って元気をもらえるとこのを循環でつくっていかればなと思っており、やっております。

あと一つ、おもしろい事例が、学校では結構クレマーに困るのです。学校が、とか来るのですが、このクレマーほど教育的関心が高いのです。関心があるからクレマーになるという部分がある。それを逆手にとりまして、丸つけボランティアやってくれませんかと言って、丸つけボランティアでちょっと入ってくれたのです。そうしたら、学校の先生ってこんなに大変だったのだと。子供ってこういうふうになるのだと、ではあのとき私がしゃべったのがおかしかったのだなというのを少し気がついてくれたりしますので、クレマーが最大の協力者になったということがうれしいことでありました。

あとは、私も教職員にコーディネート力を身につけるといのは、地域の方等をお願いしながら、自分の持っている教育力をどんどん、地域に肩がわりしてもらう。それが、地域の教育力を身につけることだし、学校の教育力を分けていけることでないかなと。なかなか昔みたいに地域の教育力というのには、おじいちゃんが、こら、おまえとやると、不審者だとか、あそこのおじいちゃん怖いとか、いろんなことを言われてやれなくなりました。そうではなくて、学校に入って、みんなを支援しているおじちゃん、おばちゃん、おじいちゃん、おばあちゃんだよということがわかれば、素直に受け入れてくれるのではないかなと思っていました。そういうコーディネート力を身につけて、地域の方をどんどん学校に呼んでもらえたらいいなと思います。

あとは、子供は地域の宝ということで、明るいまちづくりのために私がやっているのは、三ツ割の運動会があるのですが、そのときにちょうど保護者会の代表であり、行政の教育振興運動の担当者であったので、三ツ割にモデル地域になってもらって、運動会に中学生が来て参加するのではなくて、役員をやるのです。出発係の鉄砲を撃つ、決勝係をやったり準備係になったりして、自分たちが運営していく。そういう子供たちに役割を持たせる。ただ参加するのではなくて、役員として参加させて、そうすると自然にお母さん方はつい



できます。そして、小学生は、出ていて中学生のお兄ちゃん、お姉ちゃんのそういう活躍を見て、僕も中学生になったらこんなことをやりたいということをやってきて、徐々に徐々に、今十何年目になるのですか、子供たちも落ちついてきているし、そのことがとても今いい活動になってきています。ですから、きのうちょうど役員会があって、校外指導部のお母さん方が来てくれたのですが、すっかり定着していましたよということで、いろんなことで感謝をされて、だから種まきをうまいところでしてやれば子供たちにとっても、親にとってもいいことではないかなと思っております。

仁王小学校での部分というのが今新たに、前は高松小学区、そして下小路だったのですが、下小路には仁王小学校もありますし、私仁王地区なので、仁王地区でうまく種をまいてまた育てていきたいなと思っています。

一つ、いろんな関わりですが、復興についての取り組みということで、ちょっと御紹介したい部分があります。6年前、大学生とともに、大学生十何人かな、と最初に始めた活動ですが、今400人大学生が来て、夏休みに子供たちに勉強を教えたり触れ合ったり、いろんなゲームをしたりということで、子供たちにすごく楽しさを教えています。というのも、大震災が起きたときに、11日に起きて19日が卒業式だったのですが、11から12、13は自分の学校が避難所になって受け入れて、その方を帰したら沿岸がすさまじいことになっていて、何かしなければならぬと、14、15、16、17、18と年次をとって、休んでずっと沿岸の支援活動やっていました。

そのときに大学生が何かできないかと一人の子が来て、この子すごいなと思ったら、十何人を連れてもう一回行きたいということで、相談して、あそこの小学生、中学生見ていたら、中学校が終わったらもうすぐに働くと。将来に夢がなくなってしまった、あの震災の。手っ取り早くもう稼がなければならぬ。そうではないだろうな、もっと夢を見させていいのではないかなということで、君たちに夢を見させてくれと、子供たちに。将来君たちみたいに、お兄ちゃん、お姉ちゃんみたいな大学生になって、そしていろんな地域に役立つことをやりたいということを目指す子供にならせてほしいということでお願いして、ただし、たった1年、2年と来るのはできますよね。いっぱい行きました、いろんなグループが。大震災が起きて、子供たちのためとか、地域のために。でも、多分なくなるから、君らは長く続けてほしい、最低10年スパンで続けてやってほしい。10年スパンでやると、君たちがやった活動を最初の子供たちが大学生なり、高校生なり、中学生なりやってくれるだろうということで、今6年たちました。そして、今度7年目に入るところなのですが、その活動を御紹介したいし、その後でちょっとお話ししたい部分もありますので、DVDを見ていただければと思います。

〔動画上映〕

○**巖千裕講師** ありがとうございます。

ということで、去年は宮古、山田、釜石の19校、今年度また大槌と岩泉、そして宮古の残りのところで26校回る予定になっていました。回るというか、子供たちと触れ合いをし

ようということ動いています。この子たち、すごい活動をして、またリピーターではない、この中で何人かが今度、岩手の子ではなかったのですが、岩手に住みたいということで、住んでいる子供が既に何人か学生がいます。いろんなことを、赤前のさっき言ったお祭りをつくり上げていたり、ライトアップニッポンとって8月11日にやるのですが、そのスタッフになっていろんなことを企画している者もおります。さまざま岩手のために尽くしている子供たちですし、あと私のやっているのが、ほかのところであったときにも対応できる学生であってほしいということで、この間の熊本にも行ってきてさまざまなことをしてきましたし、広島の時も行ってきました。

ただ、残念だったのが、この間の台風のときに、来たいという100人以上の学生が手を挙げたのですが、受け入れができなかったのです。泊まる施設がない。ホテルならいいですよといったけれども、逆に学生の子たちはお金はないのです、ホテルに泊まるお金がなくて、ではなくて体育館でもいい、片隅でもいいから泊めてもらって瓦れきの処理から何か夏休みのうちに、夏休みが9月いっぱいなのでというので打診し続けたのですが、なかなか無理で、泊まれますよといったころには10月だったのです。もうこの学生たちは夏休みではなくなって、もう授業が始まっているので、行けと言えないですし、もう君たちの本業に力を入れなさいということでお話をしました。

何かそういう緊急なときが起きたときに、そういう学生の力が結構大きくなると思うのです。それを受け入れる、学校の体育館でもいいかと思うのです。彼らは前までは学校の体育館で寝泊まりして、そして参加していたのです。そのときは、私が校長をやっていたので、ほかの校長にも呼びかけやすかったのですが、今退職してしまって、ただの人になってしまったので、余りそれで号令をかけるわけにもいかずという感じで、ちょっと寂しい思いはしていましたが、まず今年宮古の山本市長に協力を得てグリーンピア田老の体育館を開放してもらって泊まれるようにしてもらったり、あと陸中海岸青少年の家は、前からあそこに泊まったのですが、200人ぐらいだったときはいいのですが、去年330人、ことし400人になりそうなので、どうにもならないということで200人、200人、グリーンピア田老と陸中山田。グリーンピア田老に泊まったことによって、岩泉方面にも行けるのではないかなと思っていました。結構岩泉の子供たち、そして宮古の北半分、そして南のほうも少し、大槌とか、大槌小学校、吉里吉里小学校は明治学院だったかな、と交流していて、夏休みやっているの、吉里吉里を除いた大槌小学校、大槌学園でしたか、今は、大槌学園の子供たちともかかわったり、釜石のほうにも広げていければいいなと思っていました。また、そういう何か情報があったら私のほうにも委員さんたちから教えていただいて、ここに行ったほうがいいのか、このあれ紹介するよというのがあれば、岩手のために燃えている子供たちです。

何回も、いつも、最低でも年に4回ぐらい来ているのかな。あとの3回は卒業式に来たり、そしてあとは、交流のときには全然遊べないので自分たちで自主研修で浄土ヶ浜とかにきて、あそこの海岸線を旅して、そしてみんなで交流深めて、ああ、ここもこんなだっ

たのだねということで研修を深めたり、いろんなことでその地域の子供たちと交流も深めているようです。

こういう学生たちがいるということも知っていただいて、何かに役立ててもらえれば、あとはお金がない集団です。何かこういう補助金をとればもっともっと活動が楽になるよということを教えていただければ、ありがたいです。どうしても学生が持ち出しで来るのに、やっぱり3万5,000円ぐらいの金額だったと思うのですが、自費で出してきたはいます。ですが、やっぱりどうしてもお金がないという子は来られない部分もあります。その部分で、何とか少しずつでも自分で出す出費を抑えていければいいなと思っております。まず、学生の力、そして岩手の子供たちをつなげていくためにも、さらにこれを充実させていきたいなと思っております。

以上、ちょうど時間となりましたが、いいでしょうか。きょうは、ありがとうございます。

〔拍手〕

○名須川晋委員長 大変貴重なお話ありがとうございました。

これより質疑、意見交換を行います。ただいまお話しいただきましたことに関し、質疑、御意見等がありましたならお願いいたします。

先生、この6、7のところは。

○巖岩千裕講師 もう多分時間がないので、へいそくの話と、あと終わりには銀も金も玉も何せむに まされる宝 子にしかめやもというのが私大好きで、こういう心境でやってきたので、御紹介したいなと思っただけでした。あと、へいそくの話は、本当に大した話でないです。

○名須川晋委員長 それでは、質疑なり御意見。

○城内よしひこ委員 大変貴重なお話をありがとうございました。私も宮古高校の出身であります、先輩でありますので、どうぞ。

そこで、今聞かせていただきました、僕たちの夏祭りという、実は側面から私も御支援をさせていただいたのですが、後半に書いてある事務局長や事務局次長が継続はしたいのだけれども、地域の子供たちをもうちょっと心のケアも兼ねてやっていきたいという話だったのですが、最後のほうにおっしゃられた予算の獲得がなかなか難しいということで、あと学生は時間があるのだけれども、そんなに大きなお金ではないのだけれども、何とかならないかという話をいただきました。なかなか後半戦になってくると震災から復興を見据えて、赤前の地域も少しずつもとに戻りつつある中で、そういったお金が、ずっと続けるというのがなかなか難しかったのです。何とかしてあげたいなと思いつつも、この力を受け切れなかったなというのは少し反省をしている点ではありますが、先ほどお話にありましたとおり、県内もうちょっと広い形で、エリアを広げて活動をされるということなのですが、今後そういった面での、資金面というのは学生だけに任せるというのも大変ですけれども、地元の受け皿というのは必要なのではないかなというふうに思いますが、そう

いう手だてというのですか、ラインというのですか、つながりがあるのかどうか、その辺をちょっとお伺いしたいなと思います。

○**巖手千裕講師** さっき言った僕らの夏祭りのほう、城内委員さんにやっていただいて、あそこは潤沢にあるのです、お金は。ある程度お祭りはきちんとできる。ただ、学生が泊まったりするとか、さっき言った学校との交流にそのお金は使えないわけなので、夏祭りに使うお金はあるのだが、その部分のところがちょっと足りないなというところでした。今募金と自分たちのお金の、ただもう東京で募金しても、東日本大震災のと言ってもみんなだんだん薄れてきているので、なかなか募金も集まらないのでというところでしたが、あと私は広めたかったのです、福島まで、本当は。岩手県内だけではなくて、陸前高田とか。ただし、学生たちが泊まれる宿泊施設がないのです。高田松原野営がすっかりやられましたので、あそこにかわるものがいまだにないという段階ですし、なかなか県外越えてしまうと私の知り合いもないもので、岩手県であればどこの校長に、あその副校長にお願いしてというのはあるのですが、なかなかそこが、今話し合っている段階なのですが、伸ばせてはいけていない状態です。

○**高橋但馬委員** ありがとうございます。例えばボランティアに入る場合というのは、県立大学にそういうボランティアの室というのですか、それがあって、至るところに彼らは行ってボランティア活動しているのですけれども、そういう県立大学との連携というのも考えてみるのも一つなのかなと。彼らは、学生のボランティアとしてのパイプも持っていますし、そこを利用するのも一つではないかなと思うので、そういうことを今まで考えていたかどうかというのと、あともう一つは、仮設住宅に泊まるというのも一つの手ではないかなと思うのですけれども、その辺は何か当たったことがあるのかお願いいたします。

○**巖手千裕講師** 一つ目の県立大学とコラボということは、岩手大学と盛岡大学も県立大学のほうとコラボしようと思って進めたのはあるのです。でも、県立大学は県立大学できちんとした活動を組んでいる。そして盛岡大学もそう、岩手大学もそれぞれに動いているので、なかなかコラボというのはできなくて、本当はもしよかったら岩手県の事務局として完全にそういうのをうまくやってくれるように3つの大学、岩手にあるせつかくの大学が僕夏と組んで、そして僕夏をうまく使ってくれるようなスタイルをとれば私もいいなと思ったのですが、そこまで、わざわざあるところにつくろうといっても、やっぱり難しかったです。大学の先生も首を縦に振らなかったです。なかなか難しいのだと思います。もう一つが、仮設住宅はだめでした。というか、結局目的外使用で。私もそれを考えて、今あきつ放しになっている状態だからと思ったのですが、山本市長も山田の佐藤町長も勘弁してくれと。

○**高橋但馬委員** わかりました。

○**巖手千裕講師** すみません、そういう国とのやりとりで、もしそれがわかった場合ということでした。それ以来そのところに、今はもう少し緩やかになっているのかどうかわかりませんが、また私もいろいろな部分で当たってみたいと思っていました。

○吉田敬子委員 ありがとうございます。まず、僕らの夏休みプロジェクトのほうは、私もたまたま2年くらい前に自分の出身の大学に行ったときに、その大学の先生が、私が岩手出身だということを知っているもので、教授から学生が何か岩手に行っているよと教えてもらったのがまさにこれだったので、ちょっとここに報告書が書いてあったので、すごく、ああ、いいなと改めて思いました。ありがとうございます。

質問なのですけれども、校長先生でいらっしゃったときに、不登校の子供たちのところに自宅まで行かれたというお話しされていたのですけれども、そういったときの御家族の反応だったりだとか、それをやったことでのよかった点、あとは課題とか、すばらしいなと思いましたので、もうちょっと教えていただければいいなと。私も実はと言うのも変ですけれども、小学校、中学校のとき結構本当に校長室に呼ばれることが多い、悪い生徒だったのですけれども、校長先生に、仲よくして、校長先生がすごく親身に話をしてくれたことによって、すごく私だけでなく、仲間も学校に対して来やすくというか、校長先生が本当に生徒たちと近くでいてくれると、何かその当時のことを思い出すと校長先生が一番私は覚えているので、特に小学生のころは。なので、校長先生が自分の家まで来たとなったときに、すごくうれしいことだなと思ったのですけれども、そういった点をもうちょっと教えていただければと思います。

○巖岩千裕講師 普通の校長であれば、多分自分の担任、受け持ちの担任が行きなさいだと思います。でも、それはおかしいというか、ほかの三十何人の子供が学級に来て待っていますよね。それなのにその子を迎えにいったら、その子供たちを置き去りにして出ていってしまうことになるので、本当は人数に余裕があれば生徒指導主事とか、でも生徒指導主事まで担任だと。そうなると、副校長が動けばいいけれども、副校長が結構朝大変なのです、逆に、校長より仕事は。よく考えれば、一番暇でもあり、お母さん方にいろんな不安をなくするためにも、私が行って、あらっ、わざわざ校長先生が来てくれたのですかと。俺校長先生と一緒に行くんだぜと来る単純な子もいるのです、不登校で。その子たちと来たり、あとやっぱりお母さん方の苦しさとか、そういうのをわかりたいなというのがありましたので、お母さんと話しをしたり、でもお母さんも出かけていたりもする場合もあるのですけれども、さまざまそれを今度校長の立場ではなくて、行ってきたコーディネーターみたいな役目として担任に、お母さんこういうこと言っていたよとか、子供たちがこういう状態だったよというのは担任に話しして、放課後に行ってみてごらんということで話をして、そして結局担任のほうに戻す形で。

でも、もちろん一番いいのは、私必死にそうやってやりましたよね、子供たちを迎えに行って、学校に来られるようになった。その後全然会っても知らんふりするとか、逆に言うとあのころの、不登校だったころの自分に会いたくないのでしょうか、その子は。だから、校長先生、あのときはありがとうということは絶対ないです。でも、それが一番いいことだなと思いつつながら、あの不登校のころを忘れて、普通に子供たちともかかわってわいわい楽しく遊んでいれる状態をつくり上げていく陰の役割も、それが私の一番いいの

は、保護者の方と太いパイプが出てきていることだなど。いろんなお母さんとの、お父さんとの希望とか要望とか、あとその子に対する結構児童虐待もあるのです。そういうのもちょっとスパイではないですが、見ながら、さまざまな学校経営に役立てられるので、私はすごくよかったなと今でも思っています。

**○菅野ひろのり委員** きょうは、貴重な御意見ありがとうございました。私のほうから二つ質問させていただきたいのですけれども、まず子供が笑顔になるためにということ、本当にそのとおりでないかと思いつつ、自分自身を振り返ってみると、なかなか子供にそういう時間を持っていないなという反省を持っているわけですが、今社会環境的にも、多分多くの親御さん、こういうことやっぱりそのとおりのだろうなと思うと思うのです。ただ、一方で共働きがふえたり、同居ではなくなって、二人で暮らされていたりひとり親がふえている状況で、時代の変化に合わせた教育というのをどのように考えていったらいいのかなということがちょっと幅広い漠然とした質問で恐縮ですが、その点を一つお伺いしたいと思います。

2点目ですけれども、テレビ、ゲーム、スマホ、本当にこれ課題だと思います。ただ、一方で例えば千葉の教育委員会さんだっただけだと思うのですが、学校が子供にDSを買い与えてくれるということがあったり、というのはやっぱり子供たちの遊ぶツールとして、通信プレーができるから、それを持っていないと仲間外れになって遊べないといった環境ができてきたりする中で、スマホやそういうメディアとのツールとのかかわり、逆にそれをうまく教育に活用できないのかなと。ポジティブな使い方が検討されているのかどうか、どういったものがあるのか、その大きく2点をちょっとお伺いしたいと思います。

**○巖千裕講師** 一つは、今確かに共働きで二人とも働いている。そのための多分児童センターとか学童とか、さまざまな部分がすごくいい形でできてきているとは思っています。ただ、うちの丸つけボランティアさんたちがおもしろいのが、参加してくれている人がみんなほとんど共稼ぎのお母さんだったんです。でも、ここのときに時間あいていますよとか、だから3カ月もし出していても、3カ月のうちのこの日にしか参加できない。それでいいと思っているのです。少しでもやれるときに来てもらって、子供ともかかわってもらって、いろんな目で見ると、またお母さんの気持ちも変わってくる。帰ってきたのを見ると、ああつといらいらする部分がなくなって、きょう勉強のときああしていたよねという話題はあって、その後、あのときの勉強したのはどうという会話にもつながっていて、共働きでもできるのがあるのではないかなという、行政的に議員さんたちがしっかり頑張って児童センター、さっき言った学童とか、いろんな部分は体制を整えていってもらっていますが、心の部分でそういう学校とつながりを持てればいいなと思って私は続けていました。

いつもメールを出すのですが、ごめんなさい今月もだめですと、いいですよ、参加できるときにお願いしますねというのをメールのやりとり、それは仁王小学校の地域コーディネーターとしての話なのですが、そういうことでもいいな、ああ、このお母さん一生懸命

だな、きょう日にちが合う、時間がとれましたというのが本当に楽しくやれるようなのだと思います。難しく大きな問題だと思いますが、そこまでのところ、それでだめだというところがまだ私わからない、そんなに大きな問題になっていないような気がしていました。

もう一つがあれですね。

○菅野ひろのり委員 テレビやスマホ、ゲーム。

○巖千裕講師 そこは、すみません、ほぼお手上げ状態でしたね。お手上げ状態というか、ルールは決めますが、親御さんにも一応時間を決めましょうということで、本当は時間を決めてあげればよかったのですが、おおよその目安の時間というのと、あとは持ち出さないというルールをつくったのです。家から持ち出さない、そういうのを使って友達の家に行ってわっと集まってやりとりはできないので、そのぐらいでしか学校はできなかった記憶がありますし、それを情報教育としてそこまで役立てていけるというのは、ちょっとタブレットを使っているいろんな教育はしたのですが、まだそこをうまく活用できるところまで私のところではいっていませんし、今新たにできるのかなという、私も逆に今からの人たちに質問したいぐらいのことですね。

○佐々木努委員 すごくいい話を聞いた後に、余りよくない話をお聞きしたいと思うのですが、一番最初にお話いただいた教育振興運動、私も学校教育ではなくて社会教育の立場からちょっと携わったことあるのですが、そういう経験から、今の状況、非常に危機的だと思っているのです。これ議会でもちょっと取り上げたことあるのですが、もう形骸化している。むしろ化石化していると言ったほうがいいのではないかと思います。思うぐらい活動が県内全ての市町村で停滞をしている状況で、それでも長い歴史がありますし、そういう県民みんなで学力を高めようというふうな、そういう意図からつくられた、そういう土壌があるわけですから、なかなかやめられないというのが現状だと思うのです。ただ、このまま行くと、何の目的でこの運動を続けていくのかということが、学校だけではなく保護者、地域の方々にとってもわからないまま、ただただ続いていって、結局最後は尻すぼみで、この運動の効果がどこにあらわれているのかもわからないままにこれからも続けられるという、私も心配をしているわけなのです。先生もこれに携わってこられて、必要性を認識しているがゆえに一番最初に教育振興運動を出してきたというふうに思うのですが、これからどのようにこれを立て直すのか、あるいは変えていかなければならないのか、御意見をいただきたいなと思うのですが。

○巖千裕講師 確かに各市町村とか、県もそうなのですが、教育振興運動どんどん落ちていきます。レベルも落ちているし、形骸化しているし。あれって、発表を求めている発表大会だけで終わって、その発表大会のためにこんな活動をしましたよという、それっておかしいよねと、少しそこを、そういう発表大会一旦やめて、落ちついた形で自分のところの教育振興運動、そしてそれを行政は、後援するという形に持っていけないと、多分学校は重荷、教育振興運動の発表のために先生方はどんどん時間を使う、子供たちもさまざまなことをやらせるというところで終わっているような気がします。だから、本当に一旦、

なくしてしまっているのではないかと。

私が言っているのは、教育振興運動の理念からさまざまというのを根底に置いておけば間違いないだろうということで、私は学校経営として教育振興運動の理念を持ってきている。私、それでいいのかなと思っていました。そうすると、やることが見えてくるし、どういう形かで子供たちが自分たちのためにやればそれでいいのではないかと。先生方が子供たちのために、さっき言った地域とコーディネートしていく、家庭教育とやっていく、それで私はいいのかなと思っていました、今のまま続けていくよりは。発表大会で持って行くよりは。でなければ、本当に何かどんと最初に違うやり方をしなければならぬのではないかな、それぞれの学校で予算をつける、例えば、予算というか、人を配置して、例えば私が配置になって、学校の教育振興運動、今の地域コーディネーター的にやって地域の目をいろんな面に向けさせる、家庭の力も教育力もアップさせるようなのをやっていける人を一人つけていくことでまた違うような気がします。

盛岡市だけなのかな、前は地域コーディネーターにお金が出ていたのです、ある程度、やってくださいということで。それが逆行して、去年からなくなったのです。なくなったので、私やりますと言ったのですけれども、金ももらいたくないので、金をもらおうと責任出ますよね、余計な。金が出ないので、では私の裁量で、私が考えている部分で手伝いしますよということで、そういうのが本当はお金が出て、常勤で、非常勤でもいいのですが、非常勤である程度学校に入れて、そういう枠組みをやれる人がいると、教育振興運動も含めてそういうのをやると、学校も地域も活性化していくような気はします。今の学校の定員だとあっぴあっぴだと思えます。発表のための大会をやれば、そのために資料をつくる、さまざまなことをやるのがすごく負担になってくると思えます。そうすると、ますます形骸化。せっかくいい運動をしているのに、何かどんどん重荷になってきているような気は私もしています。

○佐々木努委員 ありがとうございます。私も同意見です。

もう一つ、ちょっと関連するのですけれども、地域で今子供を育てようとか、そういう動きが、これはもう大分前から始まっているのですけれども、家庭の教育力というのはすごく下がっていて、これは自分が親で、自分が子供を育てて一番よくわかっているのですけれども、自分にその力がなかったというのがよくわかっているのですけれども、そういう中でどうやってその子供たちを、次に親になって子供を教育する、そういう子供たちを、人間を育てていくかというのは、私はやっぱり今は学校に頼るしかもうなくなっているのではないかなと思うのです。そうではないという方ももちろんいらっしゃいますけれども、家庭で育てられないし、なかなか、地域でも育てられない。地域なんかもうほとんど関与できないような今社会になりつつあるので、そういう中でやっぱり学校が人間性も含めてそういう教育をできるようにしていかないと、本当に何か国も、子供たちも大丈夫かなと思うのですけれども、現状をどういうふうに思われますか。地域、家庭、あるいは学校を含めた中での子供に対する教育力、そういうものをどのように思われているか、ちょっと



お伺いしたいのですが。

○**巖千裕講師** 学校教育力は確かにまだあります。でも、学校教育力が崩れたら、荒れた学校、さまざまな部分をつくってしまいます。そこだけに頼っていかないで、地域教育力、家庭教育力というものはいって、さっき言った学校教育力も確かにすごいと思います。その部分の教育力をさっき言ったような形で分けてもらえるスタイルをとっていけば、少しはいいのかなと思っています。

さっき言った、学校に入って、地域のおじいちゃん、おばあちゃんも先生、うちのお父さん、お母さん、そして隣のお父さん、お母さんも先生という形の教育力をつくり上げていけばいいということが一つと、お父さん、お母さんもどうしても今の子供がかわいい、ではなくて、この子供の未来のためにもう少し考えてくれないという話をすると、どうのことですか、あなたはこの子供の未来を、こういうふうになりたいとか、こういうふうに育てほしいとかという親の願いと子供の思いがあるわけですが、そこを見据えた形で、やっぱり叱らなければならないときは叱らなければならないし、そして褒めるときは褒めていかなければならない。何か子供の言いなりになっている親が多いのです、今すごく。うちの子供がこう言っています、お母さん落ちついて。では、ちょっと子供を呼んでこようねと。違うのですよね、何か。お母さん、余計なことを言わないで、私そんなこと言っていないわよと、もう子供には弱くて学校には強い。クレマーであればいいというようなスタイルの親が多くなって、学校はもう戦々恐々としているのです。もう本当に道理が引っ込んでいる状態になっている部分もクレマーのお母さんたちにつらい部分があるので、もっと教育力を分けてあげて、その中で話し合いをさせながらとは思っているのです。

それというのは、私は理想論だとは思いますが、学校の先生は今大変危機的な状況です。各学校に何人かは精神的疾患を抱えて、もうやれない状態になっている人たちが多くなっていました。でも、それは抱えなければならないわけです。首にするわけにはいきません。

私、またもう少し後でレポートでも提出します、今頑張って、仁王小でそういう教育力を分けてあげられる地域と家庭に、そういうのもっとできたらやっていきたいと思います。前、校長時代の見前南とか北厨ではできたのです。あれは校長としての力を使ったからできたことであって、今、一市民としてどういう形でかかわったらこういうのができるのかなというのは、去年の11月にやってまだそこまで。ただ、ボランティアが20人しかいなかったのが48人になっているのです。どんどん増えてきたので、それだけは私の成果かなと思っていましたが、そこを広めていったりしたいなと思っています。そして、どんどん分けていってから、佐々木委員さんに報告したいと思っています。以上です。

○**名須川晋委員長** ほかによろしいですか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○**名須川晋委員長** ほかにないようですので、本日の調査はこれをもって終了いたします。

褒岩様におかれましては、本日はお忙しいところまことにありがとうございました。褒岩様からは、本県の教育力を高めるための具体的な、また貴重な話をいただき、大変参考となりました。改めて拍手でお送りしたいと思います。

〔拍手〕

○名須川晋委員長 委員の皆様には、次回の委員会運営等について御相談がありますので、しばしお残り願います。

次に、6月に予定されております当委員会の県内調査についてであります。お手元に配付しております委員会調査計画案のとおり実施することとし、調査の詳細については当職に御一任願いたいと思いますが、これに御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○名須川晋委員長 御異議なしと認め、さよう決定いたしました。

次に、8月に予定されております次回の当委員会の調査事項についてであります。御意見等がありますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○名須川晋委員長 特に御意見等がなければ、当職に御一任願いたいと思いますが、これに御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○名須川晋委員長 御異議なしと認め、さよう決定いたしました。

以上をもって、本日の日程は全部終了いたしました。本日はこれをもって散会いたします。